

2018年度（平成30年度）

研究部門名 生物学研究部門

講座名 分子細胞生物学講座

教員名 松浦 彰

電子メール amatsuur 理 faculty.chiba-u.jp

(1) 研究論文などのリスト（印刷中を含む）

	著者・発表者 等	タイトル	発表雑誌・会 合等	巻・ 号	頁	発行・発 表年等	掲載論文の DOI(付与されている 場合)
(1)	Takeda E, <u>Matsuura A.</u>	A substrate localization model for the selective regulation of TORC1 downstream pathways.	<i>Commun. Integr. Biol.</i>	11	e1475830	2018	doi: 10.1080/19420889.2018.1475830
(2)	Baba M, Tomonaga S, Suzuki M, Maeda G, Takeda E, <u>Matsuura A.</u> , Kamada Y, Baba N.	A nuclear membrane-derived structure associated with Atg8 is involved in the sequestration of selective cargo, the Cvt complex, during autophagosome formation in yeast.	<i>Autophagy</i>	15	pp.423-437	2019	doi: 10.1080/15548627.2018.1525475
(3)	田村隆明監 訳	分子生物学ーゲノ ミクスとプロテオミク ス	東京化学同人		19章、20章	2018	

(2) 卒業研究、大学院修士および博士論文修了指導人数

- ・卒業研究 2名
- ・大学院修士 4名
- ・大学院博士 0名

(3) 教育業績（自己申告、テキストの作成など、授業の工夫など）

なし

(4) 国際会議出席と招待リスト

なし

(5) 新聞や雑誌等で報道された研究成果等（報道媒体，報道年月日，報道内容等）

なし

(6) 国際並びに国内学会での受賞（賞名，その内容，受賞理由等）

なし

(7) 国際共同研究（共同研究名，研究内容等）

所属	職名	氏名	共同研究名	研究内容	年度
生物学	教授	松浦 彰	酵母細胞老化におけるオートファジーの役割	酵母の分裂老化、経時老化における選択的、非選択的オートファジーの生理機能の解明	30

(8) 地域・社会と連携した教育・研究活動，学会、国、県などへの協力，など

酵母遺伝学フォーラム運営委員、酵母細胞研究会理事、NISTEP 専門調査員、  
日本学術振興会国際共同研究事業審査員、ISF grant 書面審査委員

(9) 特許（発明者名，発明の名称，出願日，出願番号，整理番号等）（現時点で公表できるもののみ）

(10) その他

なし